

参戦記

～前川の大会を終えて～

五十嵐ツンデレン（新潟大学探検部）2年 板垣 和香

今回大会が行われた前川は私たちにとっては初めての川で、川の様子、そしてゲート位置のレベルの高さ、天気のお悪さ等多くの戸惑いがありました。しかし私にとってのこの大会はツンデレン加入後初の大会であったためとても気合いが入りました。

五十嵐ツンデレンは新潟大学探検部の女子チームであり、女の子の底力を見せるべく結成されたチームです。信濃川での朝練習や数々のミーティングなど新大一年熱いチームと自負しています。

私が前川の大会で感じたこと、それは新大にはもっとスラロームの技術が必要だということであり、多くの先輩がスラロームを今後の課題として挙げていました。私たちは普段、流水でゲートをくぐる練習というものが中々出来ません。そして何より新大だけの方法で凝り固まってしまうがちがこの原因だと考えました。この課題を打開するためには、このような大会で他チームの様々な意見を聞くことが重要です。個人的にはゲートに向かう角度、目標点の意識、それに力のセーブを新しく知ることができました。また参加した部員の大部分から「勉強になった」「新しい方法を知れた」という声が聞かれました。やはり色々な人と関わり交流を深めること、それもラフトの技術の向上に繋がるのではないのでしょうか。また、他チームのスラロームが間近に見られるのも大会の特徴だと思います。

五十嵐ツンデレンとして次に大会に出場するのは長良川 WWF です。私を含めた新メンバーが、次回どこまで成長出来るかが大きな鍵となるでしょう。前川で学んだことを生かした朝練習をし、充実した夏にしたいと思います。

レディース艇の良さは雰囲気を楽しんでいるところだと、ある先輩が言っていました。ツンデレンは時に口論のような激しい意見のぶつかり合いがありますが、それも含めて「本気」なところが私達の良さなのだと思います。

前川から帰って、私はますます川が好きになりました。ラフティングがもっと広まること、そして女子チームが増えることが今一番の願いです。川ってこんなに素敵なんだよ、と多くの人に知ってもらいたいです。